



初代（明治9年）

▲水島爾保布画 長生橋之図（中央図書館所蔵）



二代目（大正4年）

▲長岡名所 長生橋（提供：柏崎市立図書館）



現・三代目（昭和12年）

▲木橋から鉄橋に架け替えられた長生橋（奥は二代目）

長生橋ができたのは、明治9年。長岡の「長」と草生津の「生」の字を合わせた説や「長生き」にかけた説などがあります。初代の絵の左に見えるのが大橋、右に見えるのが小橋で、中州を挟む2本の大橋でつながっており、はじめはその橋の姿から、臥龍橋と呼ばれていました。

現在の橋は三代目で、昭和12年に竣工し、今年80周年を迎えました。



ライトアップされた現在の長生橋の様子

政策検討会議を設置

9月定例会最終日において、長岡市議会として初となる政策検討会議（スポーツ振興条例（仮称）制定検討委員会）の設置を全会一致で議決しました。今後は、スポーツ振興及び健康増進に関する条例制定のための調査・検討を行っていきます。

＜スポーツ振興条例（仮称）制定検討委員会＞（◎委員長 ○副委員長）



スポーツ振興条例（仮称）制定検討委員会の様子

◎五井 文雄	○加藤 一康
池田 明弘	深見 太郎
大竹 雅春	高見 美加
丸山 広司	杵渕 俊久
桑原 望	笠井 則雄

平成28年度決算を認定

9月定例会最終日、平成28年度一般会計・特別会計決算については賛成多数で、下水道事業会計・水道事業会計は全会一致で認定されました。

詳しくは4ページをご覧ください。



平成28年度一般会計・特別会計の決算を賛成29人、反対4人の賛成多数で認定

9月定例会

一般会計補正予算を可決

9月定例会は9月5日から25日までの21日間の会期で行われました。平成29年度一般会計補正予算などを含む市長提出議案20件、委員会提出議案1件、請願1件を審議しました。

議案等の審議結果については、5ページの会派別議案等賛否一覧表をご覧ください。

補正予算の概要

- 企業立地促進補助金 2億5,348万5千円
- 保育士等の処遇改善関係経費 2億4,350万円
- 災害復旧事業費（29年7月豪雨災害等） 2億3,433万8千円
- 長岡崇徳大学（仮称）施設整備費等補助金（債務負担行為の設定） ほか



提案理由の説明を行う磯田市長

〈目次〉

補正予算の概要、政策検討会議の設置など	1
一般質問	2
平成28年度決算を認定	4
常任委員会の所管に関する質問	5
会派別議案等賛否一覧表、意見書	5
市議会の活動状況	6



関 充夫 議員 (3期・しん長岡クラブ)

防災行政無線について

問 防災行政無線の戸別受信機の普及及びデジタル方式への移行が総務省から推奨されているが、本市の考えを伺う。

答 現在、本市では各家庭への災害時の情報伝達手段として緊急告知FMラジオや緊急速報メールなど全市民的な伝達手段に加えて、合併前に旧町村が整備したアナログ方式の防災行政無線も活用している。

アナログ方式の防災行政無線は、メーカーの部品供給体制に限界があり、また、無線機器の不要電波発射を防ぐ規格が定められ、その規格に適合しない場合は平成34年11月末までが使用期限となつて



服部 耕一 議員 (1期・共産党市議団)

公共施設の維持管理と公共施設等総合管理計画について

問 公共施設等総合管理計画の具体化・推進と住民参加の仕組みづくりについて、本市の考えを伺う。

答 は、公共建築物について、その機能と建物を区別したうえで、施設の量の適正化と適正配置に向けて取り組むものとしている。

それを踏まえ、市民生活にとって本当に必要なのは建物ではなく、その機能であると考えており、まずは、今後必要となる機能やサービスは何なのかということを見極めながら、公共施設設置の適正化を検討する中で、市民生活を守る

いるため、今後の防災行政無線のあり方について検討する必要がある。

災害時の緊急情報伝達手段は、このほかにも市民の方に効果的に情報伝達ができる方法が多くあることから、本市としては、費用対効果を踏まえながら様々な方法を検討していきたい。

問 今後の防災行政無線のあり方について、地域委員会等で住民の意向を聞く必要があると考えるが、本市の考えを伺う。

答 本市における防災行政無線の今後のあり方について、方向性がある程度見えてきた段階で各地域委員会等で住民へ説明をしたいと考えている。

今後の災害時の情報伝達手段の方法としては、防災行政無線のデジタル方式のほか、MCA無線、FM波の利用など様々な方式があることから、災害時に緊急情報を伝達するという役割を最大限発揮できる方法を検討していきたい。

保育園に関する諸問題について

問 公立保育園の全ての保育室に冷房を設置するなど、必要に応じて施設整備を行っていくべきと思うが、本市の考えを伺う。

答 公立保育園への冷房の設置については、保育環境の改善のため、現在計画的に進めているところであり、その他の必要な施設改修についても、しっかりと進めていきたい。



笠井 則雄 議員 (5期・共産党市議団)

平成29年7月豪雨について

問 集中豪雨による被害を防ぐため、太田川改修計画及び河川浚渫状況など、本市の災害対策について伺う。

答 太田川は、現在、県が平島橋から国道17号までの区間で改修工事を進めている。築堤については、昨年度に太田川橋下流で実施し、今年度は太田川橋上流の築堤と用水路付替え工事を予定している。また、河床掘削については、平成27年度から28年度にかけて、太田川橋から国道17号までの間で合計約800mを実施している。

本年7月3日・4日の豪雨では、これまでの築堤や河川掘削による改修が効果を発揮し、河川氾濫等

の被害を防ぐことができたと考えている。今後も太田川の改修については、着実に進めるよう県へ要望していく。

問 柿川放水路工事の進捗状況と完成時期について伺う。

答 柿川放水路については、県が工事を進めており、放水路ボックスの延長1.4kmについては、

工事がほぼ完了している。残りの柿川本川から越流する分水堰、太田川へ放水するポンプ場については、現在工事中であるが、30年度に完成予定と聞いている。少しでも早く放水路の効果が発揮させるため、この8月から暫定放水として、洪水の一部が放水路に流れ込むようにしている。太田川の水位が低いときには自然排水が可能であり、水門が閉じているときでも一時的に約1万6,000トンの雨水を貯留でき、豪雨時には一定の効果が発揮すると考えている。今後は、1日も早い完成に向け、県へ要望していく。



諸橋 虎雄 議員 (4期・共産党市議団)

国民健康保険の都道府県化と住民本位の改善について

問 国保料を引き下げるための一般会計からの制度外繰り入れの実施について本市の考えを伺う。

答 本市では保険料の伸びを抑え入れを行っている。一方、国保の都道府県化に合わせて3400億円の国費を投入し、赤字繰り入れである制度外繰り入れを計画的、段階的に解消することを求めている。

制度外繰り入れについては、都道府県化の影響や国からの財政支援の動向を注視しながら、予算編成の段階において全体の状況を見極めて検討していく。

新潟県地域医療構想と長岡市の課題について

問 県の推計によると今後、新潟県全体で3,596床の病床数が減少するとしているが、それに対する本市の認識を伺う。

答 新潟県地域医療構想では、区域や病床の機能区分ごとに将来の病床数の推計を定めている。そして、中越圏域の構想区域では、2025年までに21床の病床数の減少が見込まれており、その内訳を見ると、急性期病床の減少が大きい一方、回復期や慢性期の病床は増加している。この急性期病床の減少は、急性期医療に取り組んでいる基幹病院や地域医療への影響は少なからずあるものと考えている。

本市においては、現在充実している中越圏域の医療体制を含め、市民生活全体への悪影響が生じないよう、今後の状況を注視し、圏域別地域医療連絡協議会等で協議を重ねていきたい。



山田 省吾 議員 (3期・しん長岡クラブ)

これからの農業政策について

問 平成30年からの米政策の転換期に向け、今後の米の戦略をどのように方向付けるのか伺う。

答 コシヒカリに特化した生産から脱却し、中食・外食産業などの大規模需要に対応できるような、業務用米、多収性品種などの品種・作目の選定、ニーズを見据え自分たちが生産した米がどのように消費されているのかを意識しながら、生産から販売までを主体的に行える産地体制づくりを進めることなどが、今後の課題とされている。JAグループでも減反廃止後の戦略として同様のことを掲げており、本市としても、今後の取り組みの推移、実効性を見守りながら後押ししていく。



細井 良雄 議員 (3期・共産党市議団)

佐渡汽船寺泊ー赤泊航路の存続について

問 本市の寺泊ー赤泊航路に関する現状はどうか。また、住民説明会での住民の意見、佐渡航路確保維持改善協議会での協議結果や本市の発言について伺う。

答 本市との関わりは、平成19年に佐渡汽船から経営改善のため出資要請があり、発行株式の約0.6%を引き受けた。

一方、佐渡汽船の現状については、28年には本航路が約1億4千万円の赤字となっている。8月に行われた住民説明会では、本航路の存続の声は相次いだほか、3航

問 ションの可能性や今後の方向性について本市の考えを伺う。

答 農業にIoTや情報通信技術等が入ることで、農業や農作業の質が劇的に変わると考えている。その結果、後継者の問題や多様な才能の受け皿となる可能性が出てくる。また、気象・土壌データ等をはじめとするビッグデータの活用、さらにはドローンやGPS機器を活用した農作業の精密化や効率化などにより、飛躍的な生産性の向上も期待できる。

幸い、本市には県の農業総合研究所があり、これに企業や大学、高専などが有する技術や経営ノウハウを組み合わせることで独自のデータの蓄積が期待できるため、本市としては、今後の連携について検討を進め、技術革新を使った新しい農業の展開を促して、農業分野でのイノベーションを後押ししていきたい。

路全体の収益を増やす経営努力をすべきといった意見等が出された。また、同24日には佐渡航路確保維持改善協議会が開催され、地元住民代表から意見を聞くこと、佐渡汽船から経営再建計画を聞くことについて合意された。本市は、その席で経営再建の道筋が不明瞭であることを挙げ、拙速な撤退ではなく、十分議論したうえで本航路の方向性を見出し出してほしいと要望した。

問 航路廃止に対する県や佐渡汽船への対応について伺う。

答 本航路は寺泊と佐渡を結ぶ観光の可能性も含め、今後の広域観光を進めていくうえで大切な路線であると考えている。

本市では、県に対して将来の観光振興を見越した本航路の価値の検証を十分に行うよう要望したほか、佐渡汽船に対し地元への十分な説明と3航路の今後の改善の方針の説明も求めている。

*1 MCA無線：ひとつの制御局から発する複数の周波数を多数のユーザーが利用することで、周波数の有効利用を図るシステム。通信に際しては多数のチャンネルの中から空きチャンネルを自動的に選択し、主に業務用無線として利用されている。 *2 IoT: Internet of Things (モノのインターネット) の頭文字で身の回りのあらゆるものがインターネットにつながる仕組み。農業分野では、日照・気温センサー等により、水やりを自動化したり、生育をカメラで監視し、肥料散布や収穫時期を判定したりと、作業の効率化やコスト削減に活用するなどの使い道が考えられる。 *3 3航路：佐渡汽船が運航している寺泊ー赤泊間、新潟ー両津間、直江津ー小水間の3つの航路。



荒木 法子 議員
(1期・市民クラブ)

長岡版イノベーション推進と公共データの活用促進について

問 重点政策である長岡版イノベーションについて市民が理解を深めるには、中長期的な戦略が必要と思うが、本市の考えを伺う。

答 3大学1高専の知能集積、そして技術力の高い企業が数多く存在する長岡での産業集積を生かし、これらを結びつけて長岡版イノベーションの推進を創出していきたく考えている。そのためには、中長期的な戦略とともにスピード感を持って取り組みたいと考えている。

また、多くの市民の皆さんからイノベーションを実感してもらうため、常に見える化を意識しながら

ら長岡版イノベーションを推進し、特に若者、青少年、そして産業界の皆さんに積極的に参加してもらいながら、起業や創業、新技術の開発に取り組んでほしいと考えている。

問 市民生活の向上のため、市民が保有している公共データの民間開放の推進と、データの集約・連携による活用促進について本市の考えを伺う。

答 本市では、平成28年4月から公共データの民間開放に取り組んでおり、公開可能なデータは、順次ホームページで公開している。データの公開には、個人情報やプライバシーの保護などの課題があるが、今後も様々なデータの公開に努めていく。

また、市で保有しているデータを集約、連携させ、利活用を図ることは、行政が抱える課題解決に非常に有効な手段であると認識している。今後も先進事例などを参考にしながら、市民生活の向上に資するよう、さらにデータの利活用に取り組んでいきたい。



広井 晃 議員
(2期・市民クラブ)

障害者の環境について

問 障害者の高齢化が進む中、緊急に保護などが必要になった場合、安心して暮らせる体制はどのようにしているのか現状を伺う。

答 緊急時は、障害者基幹相談支援センターと市が委託している障害者相談支援センター及び安心・安全コールセンターとが連携して対応している。ここでは、相談対応をはじめ、緊急保護施設としてのショートステイ先やグループホームの確保、その後の生活支援に至るまでを一体的に支援できる体制となっている。

問 中小企業の事業承継について、相談窓口、採用の支援策、技術の承継策など本市の支援策を伺う。

答 市内事業所の約99%を占める中小企業は、雇用や多様な技術・技能の担い手として、地域で果たす役割が極めて大きい。そうした中で、事業承継は経営のセシス、人脈や技術のノウハウなど無形のものも含めて承継するため、問題意識を持って取り組むことが大切である。

現在、本市では関係機関と連携し、事業承継の準備を働きかけるセミナーや意識啓発に積極的に取り組んでいる。また、県も支援体制の強化に向けた経済団体や自治体とのネットワーク化を進めようとしており、本市もこれに協力して取り組んでいきたい。

さらに、今後、商工会議所や商工会とともに、経営者にとって身近な会計士や税理士、金融機関なども連携して、円滑な事業承継に向けた実効性のある支援策を検討していきたい。



池田 明弘 議員
(1期・長岡市公明党)

ICTを活用した健康カルテの導入について

問 市民の健康データを一元管理し、市民の健康づくりと市の効果的な健康施策のために活用すべきと思うが、本市の考えを伺う。

答 現在、本市が保有する市民の健康情報は、担当部署のみの利用で、市民が直接アクセスできないシステムではない。今後、市民が自分の健康データを活用するには、行政のデータだけでなく、医療、服薬などのデータも必要になるが、一自治体だけでは難しいところもあると考えている。しかし、ICTを活用すること

により、医療費の軽減につながる施策が可能になると期待しており、今後、国で検討されている健康、医療、介護施策におけるICTの利活用の動向を注視していきたい。

問 新公会計の積極的な活用と市民への財務情報の開示によって、行財政改革を進めるべきと思うが、本市の考えを伺う。

答 財務書類に表れる数字だけでなく、今後、自治体は客観的なデータに基づいた行政運営を基本にすべきと考えている。その意味でも財務諸表の活用は行財政改革に必要不可欠と認識しており、積極的に活用していきたい。

また、税金の適正かつ効率的な活用と行政サービスに対する市民のコスト意識の向上という観点から、市の財務情報を見える化し、分かりやすく市民に伝えることは重要だと考えている。



五十嵐 良一 議員
(1期・民成クラブ)

高レベル放射性廃棄物の最終処分場問題について

問 本市は、最終処分場を受け入れる考えはあるかを伺う。

答 高レベル放射性廃棄物の最終処分場については、平成27年に国は新たな基本方針を決定し、現世代の責任として地層処分を前提に取り組みを進めることや、国民や地域の理解と協力を得ていくため、地域の科学的特性を国が提示することなどが決まっている。この方針のもと、本年7月には全国地図の形で科学的特性マップが公表され、本市は活断層の近傍、油田・ガス田が存在する範囲などの要件・基準に該当する「好ましくない特性があると推定される地

域」が市内全域に広がっていることを確認している。最終処分場問題は、国が責任を持って国民的な議論を深めながら取り組む重要な問題であると認識しており、また市内に適地もないことから、本市としては、最終処分場を受け入れる考えは持っていない。

問 最終処分場の問題と原発再稼働について、本市はどのように考えるか伺う。

答 最終処分場の問題については、全国市長会を通じて課題解決に向けて国が前面に立って取り組むことを要望しており、今後もし引き続き国が責任を持って対応するよう要望していく。

また、柏崎刈羽原発の再稼働については、国の審査が続いており、県は福島第一原発事故の検証が終わるまで再稼働の議論はしないとされている。本市としては、国や県などの動向をしっかりと見極め、再稼働に対しては適切に判断して対応していく。

議会情報を発信中！

本会議・委員会の詳細は、会議録またはホームページ上の会議録検索システムをご覧ください。

(9月定例会の本会議・常任委員会の会議録は11月下旬、決算審査特別委員会の会議録は12月中旬発行予定です)

■会議録をご覧になれる場所

アオーレ長岡(東棟1階行政刊行物コーナー、東棟3階情報公開コーナー、西棟4階議会事務局)、各支所、市立図書館など

■会議録検索システム、インターネット録画中継、議会の日程

⇒「長岡市議会ホームページ」にアクセス

長岡市議会

議会中継が見やすくなりました！

- ①Mac、スマートフォン、タブレット等で視聴可能になりました。
- ②録画中継にかかるホームページ画面での検索機能が追加されました。
 - ・開催日、会議名、発言者名のドロップダウンリストによる検索が可能
 - ・開催年を選択することで一覧のスクロールの手間を省略
- ③YouTubeで視聴可能になりました。



12月定例会を傍聴しませんか？

12月定例会の日程は、11月上旬に決定します。決定次第、ホームページでも掲載します。ぜひ傍聴にお越しください。



親子傍聴席

本 会 議	・開会	午後1時
	・受付	午後0時30分からアオーレ長岡西棟2階(傍聴受付)にて
	・定員	65人、車いす席2人、親子傍聴席10人

常 任 委 員 会	・開会	午前10時
	・受付	午前9時30分からアオーレ長岡西棟4階(議会事務局)にて
	・定員	12人

平成28年度決算を認定

決算審査特別委員会で審査しました

9月定例会において決算審査特別委員会を設置し、9月19日から21日の3日間にわたり平成28年度の予算執行における収入・支出が適正に行われたかを審査しました。

その結果、一般会計・特別会計・下水道事業会計・水道事業会計の決算は、いずれも認定となりました。

なお、決算審査特別委員会の委員は、以下のとおりです。

<決算審査特別委員会委員> (◎委員長 ○副委員長)

◎関 正史	○水科 三郎	田中 茂樹
五十嵐良一	池田 明弘	深見 太朗
高見 美加	中村 耕一	加藤 尚登
細井 良雄	丸山 広司	山田 省吾
古川原直人	長谷川一作	笠井 則雄
関 貴志	加藤 一康	

区分	歳入	歳出
一般会計	1,334億4,460万2千円 (対前年比2.5%減)	1,311億6,193万6千円 (対前年比1.6%減)
特別会計 下水道事業会計 水道事業会計	824億2,670万3千円 (対前年比1.7%減)	855億7,165万4千円 (対前年比0.9%減)

<平成28年度一般会計決算の概要>

一般会計の歳入総額から歳出総額と翌年度に繰り越す財源を差し引いた実質収支は、14億6,985万4千円の黒字となりました。

歳入

基幹収入である市税や地方交付税などの減少により、一般財源が見込みを大きく下回る状況となりました。

歳出

人口減少に市民の総力を挙げて立ち向かう始まりの年として、「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」と新たな総合計画によるまちづくりを推進し、子育て支援や教育環境の整備、産業支援と働く場の確保、そして「ながおか・若者・しごと機構」の積極的な事業運営の支援により、未来を担う子どもの成長と若者の活躍を支える施策に力を入れて取り組みました。

また、本市が世界に誇る文化の国内外への発信や、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた事前合宿の誘致などにより、本市の魅力の向上に努めました。

さらに、各地域の宝の磨き上げや姉妹都市等との交流を通じて活力を生み出すとともに、市民が安心して住み続けられるまちを目指し、健康・医療・福祉の推進と連携や、防災・災害対策を強化するなど、オール長岡で未来を築く施策を着実に進めました。



平成28年度一般会計決算に対する決算審査特別委員会での採決

一般会計決算に対する各会派の意見・評価

賛成

市民クラブ

平成28年度決算は、形式収支で22億8千万円、実質収支で14億6千万円の黒字となったが、財政調整基金を17億5千万円取り崩したうえでの黒字額であり、大変厳しい決算となった。しかし、各種財政指標は健全性を維持しており、特筆すべき問題はなかった。

子育て支援、働く場の確保、中心市街地の整備、地域の宝磨き上げなど、未来への投資が活発になされ、胃がんリスク検診や社会福祉センター「トモシア」の開設など、健康・医療・福祉政策が大きく前進したことを特に評価する。

引き続き健全財政に努めるよう要望し、本決算の認定に賛成する。

賛成

しん長岡クラブ

平成28年度当初予算の骨子は「オール長岡で未来を築く予算」とし、人口減少に市民の総力を挙げて立ち向かう始まりと位置付け、子育て支援や教育環境の整備、地域の宝磨き上げや姉妹都市との交流による活力の創出、健康・医療・福祉の増進と連携など、長岡らしい事業展開を着実に進めてきたものと評価する。

歳入では、厳しい財政状況の中、一般行政経費等の徹底した削減と、国・県補助制度の可能な限りの活用、さらには財政調整基金の一部を取り崩して歳入を確保し、健全財政の維持に努めているものと理解し、平成28年度決算の認定に賛成する。

反対

共産党市議団

基幹3病院への財政支援や、放課後児童クラブの時間延長等は評価するが、市税等の落ち込みで財政調整基金を大幅に取り崩す財政状況である。

大手通表町西地区の市街地再開発事業は多額の事業費となったことから、今後の再開発事業はこれらの開発結果を十分に検証し、慎重な対応を強く求めるところである。また、再生可能エネルギーへの転換へ、長岡が持つ工業力や、豊富な自然エネルギーを利活用すべきである。さらに中心市街地に偏らず、全域での商店リニューアル助成事業や中山間地域への支援を拡充すべきである。

賛成

民成クラブ

平成28年度の景気は緩やかな基調で回復傾向にあるが、市内の中小企業の景気感は一極化し、依然厳しい状況が続いている。このような中、歳出では補助金・交付金などの執行額が1割にも満たない事業や、交付金が見込みを下回り、不足分を市が負担した事業など、予算編成に疑問を感じている。

一方、市民の要望の高い子育てや教育環境の整備に加え、防災対策の推進など、多様な政策に取り組んできたことは高く評価する。少子高齢化が進み、財政が厳しさを増す今後は、適正な財政運営のもと多種多様な市民ニーズに応えていくことを要望し、本決算の認定に賛成する。

賛成

長岡市公明党

平成28年度は、人口減少問題に立ち向かう始まりの年として、長岡版総合戦略「長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～」を推進し、若者の地元就職、U・Iターンなどの促進、子育て支援や産業支援の強化、各地域の宝の磨き上げなどによる活力の創生、健康・医療・福祉の推進と連携など、オール長岡で地方創生の施策を着実に前進させたものと評価する。

今後、人口減少・少子高齢化によりますます財政が厳しくなる中、さらなる行財政改革に努め、市民の福祉の向上に資する施策の推進を期待し、平成28年度決算の認定に賛成する。



9月定例会 常任委員会の所管に関する質問

各常任委員会では、議案審査のほかそれぞれ担当する事業等について質問する「所管事項に関する質問」を行っています。ここでは、質問の一部を掲載しています。詳しくは会議録（11月下旬発行予定）、インターネット録画中継をご覧ください。

総務委員会

- 指定管理者選定時における労働法令の遵守や雇用・労働条件への配慮に関する確認
- 長岡グローバル人材育成事業の概要と経緯
- 復興支援員と地域おこし協力隊の地域定着のための支援
- 防災行政無線のデジタル化の整備方針
- 恒久平和の日である8月1日を市民が平和の尊さを考える日とすることに対する考え
- 国の動向などを踏まえた現時点の平成30年度当初予算編成の考え
- 市民に対して分かりやすい気象情報の提供方法の検討
- 柏崎刈羽原発事故に備えた市民の不安解消のための出前講座の実施 など

文教福祉委員会

- 子どもの生活習慣病予防に対する取り組み
- 教員の業務負担軽減のための国の施策に対する本市の取り組み
- 国民健康保険の資格証明書で受診する場合の医療費負担に対する市の見解と資格証明書の削減策
- 新学習指導要領で導入されるプログラミング教育におけるNPOや市民有志によるサポートの有効性
- 社会福祉センター「トモシア」とアオーレ長岡の市民協働センターとの連携による福祉事業の充実に対する考え
- 認知症早期発見のための特定健診活用の有効性 など

産業市民委員会

- 長岡まつり大花火大会での外国人案内対応のための「指さし会話シート」の対応言語拡充の検討
- 国の生産数量目標配分の廃止後における売れる米作りや新品種の拡大等に向けた取り組み
- 北前船の日本遺産認定に伴う活用と長岡開府400年に合わせた北前船寄港地フォーラムの開催の検討
- 外山脩造を生かした観光振興策の検討
- 市の起業支援制度の見直しに対する考え
- 新産業団地整備事業における公園整備の必要性 など

建設委員会

- 地域生活交通に対するニーズや地域の声の把握方法
- 7月3日・4日大雨災害による主要地方道栃尾山古志線の復旧の見通し
- トキの一般公開に合わせた寺泊136号線（トキ分散飼育センター前の市道）の整備状況と今後の見通し
- 各地域の特徴を示しているマンホール蓋がデザインされた「マンホールカード」を使った下水道のPR手段に対する考え
- 公園・街路樹等病害虫・雑草管理マニュアルの活用状況と効果
- 水道施設の長寿命化への取り組みと更新に対する考え など

教育委員会委員の選任に同意

9月25日の本会議最終日において、次の方を選任することに同意しました。

青柳 由美子 氏（再任）

会派別議案等賛否一覧表

9月定例会

○：会派全員が賛成 ×：会派全員が反対

議案等	会派名 ()は所属議員数	市民クラブ	しん長岡クラブ	共産党市議団	民成クラブ	長岡市公明党	無所属A	無所属B	議決結果
		(16)	(5)	(4)	(3)	(3)			
市長提出	専決処分	○	○	○	○	○	○	○	承認
	補正予算	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	条 例 改 正	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案	その 他	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	決 算	○	○	×	○	○	○	○	認 定
	人 事	○	○	○	○	○	○	○	同 意
提出議案	意 見 書	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
	請 願	○	○	○	○	○	○	○	採 択

会派別議員名簿（9月25日現在）

市民クラブ	丸山 広司	加藤 尚登
	高見 美加	池田 和幸
	広井 晃	荒木 法子
	田中 茂樹	深見 太郎
	大竹 雅春	古川原直人
	松井 一男	長谷川一作
しん長岡クラブ	山田 省吾	杵淵 俊久
	関 充夫	永井 亮一
共産党市議団	笠井 則雄	諸橋 虎雄
	服部 耕一	細井 良雄
民成クラブ	加藤 一康	五十嵐良一
	小坂井和夫	
長岡市公明党	中村 耕一	池田 明弘
	藤井 達徳	
無 所 属	A 桑原 望	
	B 関 貴志	
	C 丸山 勝総（議長）	

9月定例会で可決した意見書

市民生活に重要なことで、それが国や県の仕事である場合、市の力では解決できないことがあります。このようなときには、関係機関に「意見書」を提出して、積極的な解決を求めています。

学費と教育条件の公私間格差是正に向けて、私立高等学校への私学助成の充実を求める意見書

私立高校は、建学の精神と独自の教育理念のもと、特色ある教育を実践し、公教育の場として大きな役割を果たしています。しかし、私立高校の学費負担については、国の就学支援金制度や本県独自の学費軽減制度の拡充により、軽減が図られたものの、依然として重い負担があり、公私間に大きな学費格差が存在しています。また、私立高校の経常経費に対する助成が2分の1以内に限定されてきたために、私立高校の教員構成は年々専任教員が減り続ける一方で、有期契約の常勤講師がふえるなど、教育条件にも公私間格差が生じています。よって、国及び県におかれては、学費と教育条件の公私間格差是正を図るため、私立高等学校への私学助成を充実されるよう、強く要望します。（送付先）内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、新潟県知事

市議会の活動状況

9月		
1日	議会運営委員会	
9 月 定 例 会 (21 日 間)	5日	議会運営委員会 本会議(招集日) 総務委員会
	6日	議会活性化特別委員会 本会議
	7日	本会議
	11日	文教福祉委員会 文教福祉委員協議会
	12日	建設委員会 議員協議会
	13日	産業市民委員会 産業市民委員協議会
		まちづくり・新エネルギー対策特別委員協議会
	14日	総務委員会 総務委員協議会
		19日
	20日	決算審査特別委員会
	21日	決算審査特別委員会
	25日	議会活性化特別委員会
		議会運営委員会
		総務委員会
産業市民委員会		
建設委員会		
	本会議(最終日)	
10月		
6日	まちづくり・新エネルギー対策特別委員会 市内現地視察	
11~13日	産業市民委員会、建設委員会行政視察	
18~20日	総務委員会、文教福祉委員会行政視察	
24日	人口減少対策特別委員協議会	
25日	議会活性化特別委員会	

※常任委員会行政視察報告については、次号(2月1日発行204号)に掲載します。

8月22日 中越地区市議会合同議員研修会に参加



吉嶺文俊院長による講演の様子

毎年、中越地区の市議会議員が一堂に会して合同研修会を行っています。

今年は、十日町市で開催され、新潟県立十日町病院の吉嶺文俊院長から「新潟から明日の医療を考える」をテーマとした講演がありました。

8月24日 県市議会議長会秋季定期総会を開催

県市議会議長会秋季定期総会が加茂市で開催されました。平成28年度会計等の決算について承認したほか、各市の国等への要望事項である提出議案13件が審議され、原案のとおり可決されました。



県市議会議長会会長としてあいさつをする丸山勝総議長

議員研修会を開催

同日、上越市で議員研修会を開催し、「上越市中山間地域振興基本条例」の概要について、本条例を提案した上越市議会議員と意見交換を行いました。

このほか、中山間地域の活性化を目指して活動を行っている有限会社グリーンファーム清里を視察しました。



議員研修会の様子(上越市清里コミュニティプラザ)

9月11日 政策検討会議の設置を要望



丸山勝総議長に対し政策検討会議の設置を要望

長岡市のスポーツ振興をめざす議員有志から丸山勝総議長に対し、政策検討会議(スポーツ振興条例(仮称)制定検討委員会)の設置について申し入れがありました。

これは、長岡市のスポーツ振興及び健康増進を進め、また2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け市民の機運醸成を図り、議会と行政が一体となって事業を推進するため、議員提案の政策条例の制定を検討する会議の設置を要望したものです。

9月12日 議員協議会を開催

議員協議会を開催し、平成31年4月開学予定の長岡崇徳大学(仮称)について、市からの財政支援や、開学までのスケジュールなどの説明を受けました。

このほか、長岡版イノベーションの推進に向け、市長が8月22日から26日に米国シリコンバレーを視察した報告がありました。

議会活性化特別委員会を開催

9月6日に第3回、9月25日に第4回、10月25日に第5回の委員会を開催し、それぞれ「情報通信機器の活用」等について協議しました。

この特別委員会では、タブレット端末の導入目的の実現に向けた活用方法や導入時期、費用負担等について協議しました。

10月6日 特別委員会が市内現地視察を実施

まちづくり・新エネルギー対策特別委員会が長岡市内3ヶ所にある道の駅「良寛の里わしま」、「R290とちお」、「越後川口」を視察しました。交流人口の拡大を目指したまちづくりについて検討を進めるため、各施設の現状や課題等について意見を聞きました。今後は、この課題について本委員会で協議していきます。



現地視察の様子(良寛の里わしま)

10月7日 米百俵まつりに参加

今年も丸山勝総議長をはじめ、議員が米百俵まつりの越後長岡時代行列に参加しました。出陣の号砲が響き渡ると総勢約500人の時代行列の行進が始まり、千秋が原南公園から大手通りまで練り歩きました。

時を超えた壮大な歴史絵巻のような光景に、来年の長岡開府400年に向けての気運が高まりました。



牧野忠毅公に扮した丸山勝総議長



大手大橋を練り歩く議員

議員の年賀状は禁止されています

市議会議員は、答礼のための自筆によるものを除き、選挙区内の人に対して年賀状を出すことやお歳暮などを贈ることが公職選挙法で禁止されています。ご理解をお願いいたします。

